



総合型地域スポーツクラブ 公式メールマガジン

このメールマガジンはスポーツ振興くじ助成金を受けて配信しています。
スポーツ振興くじについてはこちらから

[日本スポーツ振興センターHP] <http://www.jpnsport.go.jp/>



スポーツ振興くじ助成事業



特集 スポーツ少年団と連携するクラブ

▶▶▶ NPO法人わっと楽しくスポーツふそう

特別企画 ラグビーに関連するプログラムを実施するクラブ

▶▶▶ NPO法人札幌オールカマースポーツ倶楽部

▶▶▶ 館林ジョイスポーツクラブ

連載 みんなで盛り上げよう！

オリンピック・パラリンピック・ムーブメント

▶▶▶ NPO法人希楽々

▶▶▶ NPO法人WillDo



助成金情報 ▶▶▶ 詳細



お知らせ ▶▶▶ 詳細



バックナンバー ▶▶▶ 詳細



公益財団法人

日本スポーツ協会

特集

スポーツ少年団と連携するクラブ

NPO法人わっと楽しくスポーツふそう ＜愛知県丹羽郡扶桑町＞

総合型クラブは地域に定着し、浸透するためには、地域との一体感の醸成が重要となります。そのために、スポーツ少年団をはじめとする地域のスポーツ団体等と相互扶助の関係を築き、地域社会からの信頼性を確保し、地域に根差す団体となる必要があります。

そこで今回は、スポーツ少年団と連携し、地域におけるスポーツ推進体制を高めているクラブを紹介します。



1. 隣接市でスポーツ少年団・ミニバスを指導する町内在住者がキーマン
→ミニバス教室が大きく発展
2. 実践クラスはスポーツ少年団に自動登録、指導者はスポーツ少年団認定員養成講習会に参加
3. 指導者と事務局で役割分担を明確化
→スポーツ少年団活動がスムーズに機能

1 クラブ概要

平成22年10月の第1回総合型創設検討会議に続き、平成23年1月に第1回設立準備委員会を開き、クラブ設立に至るまで計7回の設立準備委員会を開催しました。設立準備委員会は町民主導型の活動を目指し、特定非営利活動法人ふそうスポーツクラブ（現在は本クラブと合併）、扶桑町体育協会および同町スポーツ推進委員会の代表者で構成し、三つの団体が一体となり設立に向け話し合いを進め、平成24年2月25日に設立総会を開催し、平成24年度より事業をスタートさせました。

本クラブの理念は、「①ふれあおう ②そだてよう ③うごきだそう」です。総合型地域スポーツクラブの大切な三つの条件「多世代・多種目・自主運営」を基本にして、人とのつながりを大切にしながら、楽しいスポーツの機会を増やし、健康づくり活動を進めるとともに、子どもたちの体力・運動能力の向上を目指しています。



今年度は設立から8年度目になりますが、今年度開催しているスポーツ種目は22種目です。設立年度の開催種目が14種目でしたので、種目数はかなり増えたと思います。しかし、毎年順調に種目を増やすことができたわけではありません。体験教室を開催したものの定期的な開催ができなかった種目や、受講者が少なく閉講しなければならなかった種目もあります。現在も、扶桑町という地域に合ったものを試行錯誤しながら実現させていく努力はしています。

本クラブの事業の中心になっているものは、教室とサークルの運営ですが、単発的な活動としてグラウンド・ゴルフ大会、スナッグゴルフ大会、1泊2日の夏休み自然教室、日帰りバスツアー等もイベント事業として行っています。また、今年度で3年度目になりますが、お茶を飲みながら懐かしの歌を歌う「うたカフェ」のような文化的コミュニティ活動も行っています。今年度初の事業としては、夏休みに小学生を対象に、夏休みの宿題のお手伝いをする「宿題ひろば」を開催しました。

2 体験教室のミニバスが、計5クラスの通常教室に発展

本クラブの教室の一つにミニバスケットボールがあります。この教室は、設立から2年度目に通常教室として開講しました。町内在住で、当時、隣接の市でスポーツ少年団のミニバスケットボールの指導をしていた方が、「ぜひ、自分が住んでいる地元で小学生にミニバスケットボールの楽しさを伝えたい」、さらには「中学校での部活動にもつなげられたらいいな」という思いで、本クラブに申し入れがありました。それが教室として実現したのです。

設立年度は期間限定の体験教室からスタートし、小学3年生以上を対象にした基本クラスだけでした。3年度目に、実践クラスも設けました。さらには、対象も年長以上となり、現在は、基本クラスが3クラス、実践クラスが2クラスに分かれて活動しています。各クラスの活動人数は同一ではなく、基本クラスがA30名、B35名、C60名、実践クラスはA35名、B25名の構成となっています。月1～2回の活動頻度で、2～4名の指導者で対応しております。

競技性より健全育成を重視→クラブ理念と合致したのがスポ少大会

クラス数が増え練習を重ねていくと、子どもたちは試合や大会に出たいという思いが、どうしても強くなります。本クラブのミニバスケットボール教室は競技性よりも子どもたちの健全育成を第一に考えています。こうした方針やクラブ理念と合致する大会を探したところ、たどり着いたのがスポーツ少年団の大会でした。そして、スポーツ少年団の大会に参加するために、実践クラス受講者全員をスポーツ少年団に登録することにしました。幸い、指導者は以前からスポーツ少年団に精通し経験や実績もある方でしたので、他のスポーツ少年団との交流もあり、問題なく進めることができました。



スポーツ少年団への登録に際して、初年度は任意でしたが、次年度からは募集要項のミニバス実践クラス欄にスポーツ少年団登録を自動的にする旨を記載しています。登録料は対象者から個別に集金して対応しております。また、指導者の登録ですが、新たな指導者登録予定者には、スポーツ少年団認定員養成講習会に参加してもらいました。ただ、講習会の開催日と参加者の都合との調整が大変でした。

3 指導者はミニバスに専念、 スポ少の事務作業はクラブ事務局が担当

ミニバスケットボールに直接関わることは完全に指導者にお任せする一方、スポーツ少年団に関わる事務的な作業は、本クラブの事務局が担うこととしました。年度ごとの更新の手続きや大会の申し込み等が、本クラブ事務局の仕事となっています。また、扶桑町スポーツ少年団本部の理事会は、各スポーツ少年団からの代表者によって組織されているため、この理事会にも本クラブ事務局が出席しています。このように、ミニバスケットボールの指導に関わることと事務的作業の役割分担は、必然的ではあったかもしれませんが、うまく機能していると思います。また、他の少年団と合同で体力テストを年2回実施するようになり、他の少年団のことを知るきっかけとなりました。



4 町の支援で活動場所を優先的に確保、 町でミニバスが徐々に定着

スポーツ少年団の指導者からは、「事務的作業の軽減ができていることは大変助かっている」と言っています。活動場所は、町の支援もあり本クラブが優先的に確保できるため、保護者が場所取りに苦労するということもありません。最近では、本クラブを受講していた子どもが中学校の部活動で活躍している姿もよく目にします。指導者の熱意が、扶桑町でのミニバスケットボール定着に少しずつ実を結んでいったのではないかと感じています。

5 受講者のニーズ満たす活動のためにも、 指導者等の人材確保が不可欠

本クラブが今後考えなければいけないことは、限られた施設・時間の中でいかに受講者に十分な活動の提供ができるかということです。受講者が増えると、その分一人当たりの活動量が減ってしまいます。その心配を解消するためには、多くの指導者の確保が必要と考えます。また、ミニバスケットボールだけではなく、本クラブ全体においても、指導者に限らずいろいろな立場で関わることができる人材の確保は、今後のクラブの発展にとって大切な要因であり、大きな課題です。

(NPO法人わっと楽しくスポーツふそう 事務局長 西岡秀子)

クラブ プロフィール

設立年月日 平成24年2月25日

所在地 愛知県丹羽郡扶桑町

運営 会員数835名(令和元年8月現在)、予算規模1,928万円(令和元年度)

有給職員 3名

特徴 町内唯一の総合型地域スポーツクラブとして行政が積極的に支援してくれています。町内の限られたスポーツ施設を利用して、一人でも多くの人にスポーツを親しんでもらえるよう、たくさんの種目を前向きに取り入れプログラムを組んでいます。また、スポーツだけではなく、住民交流の場としてコミュニティーの輪を広げるために、バスツアーや文化的活動も行っています。

連絡先 〒480-0103 愛知県丹羽郡扶桑町大字柏森字平塚370

TEL 0587-93-2511 FAX 0587-93-2511

E-Mail watt@fuso-sports.com

URL <http://fuso-sports.com>



特別企画

ラグビーに関連するプログラムを実施するクラブ

NPO法人札幌オールカマースポーツ倶楽部 ＜北海道札幌市＞

いよいよ4年に1度のラグビーワールドカップが日本で開幕します！

そこで、今回は、ラグビーに関するプログラムを行うクラブの取り組みを紹介します。

1 クラブ概要

40歳以上のラグビー愛好者が集まり1963年に結成された「札幌有感クラブ」は、札幌市内全域を拠点に活動してきました。後に、自らが楽しむだけではなく、子どもたちの健全育成にも取り組もうと、1981年に「札幌少年ラグビースクール」の開校へと広がっていきます。

活動を続ける際、最も苦労したのは練習場所の確保です。そこで当時、中学校建設予定地を使用させてほしいと、担当の市土地開発公社に相談したところ、スポーツ課に繋げてもらい、管理等も含め一団体に使用を許可するためには、任意団体では難しいとの指摘を受けました。また、「今後の活動を社会貢献などにも広げるためにも、総合型地域スポーツクラブという形態を導入し、法人格取得も含め検討してはどうか」とアドバイス頂いたのがクラブ設立のきっかけとなりました。

現在は、札幌少年ラグビースクール、札幌有感クラブの他にも女子ラグビーチームやフラグフットボールチームを有する他、ヨガ教室やエンジョイランニング記録会などラグビー以外の種目にも力を入れて取り組んでいます。

2 小学2年生以下が「タグラグビー」、 同3年生以上はラグビーに親しむ

ラグビーの普及を目的の一つとして取り組んでいる「札幌少年ラグビースクール」は、札幌市内全域の子どもたちを対象に募集をしています。大型スーパーのパンフレットコーナーでスクールの存在を周知し、口コミでも広がりを見せ、現在は5歳から中学3年生までの子どもたち48名が週1回元気に活動しています。



小学2年生以下がタグラグビー、小学3年生以上中学3年生までがラグビーに取り組んでいます。指導に当たっているのは、スクールに在籍する子どもの保護者約15人です。子どもが卒業してもスクールに残っていただける方もいます。

先日行われた北海道内の全スクール・札幌地区中学校が参加した大会では中学生チーム、小学低学年チームが優勝するなど、着実に力もつけており、スクールを卒業してからもラグビーを続ける子が多くなりました。

また、新学習指導要領に掲載されている「フラッグフットボール」にも活動を広げ、練習会場を提供していただいている、北海道科学大学アメリカンフットボール部の外部コーチと連携し、普及活動に取り組んでいます。

フラッグフットボール

フラッグフットボールは、アメリカンフットボールが起源になって生まれたスポーツ。

タックルの代わりにプレーヤーの両腰につけたフラッグを取ります。

(公益財団法人 日本フラッグフットボール協会ホームページより引用)

高齢者向け「Over60大会」も開催

毎年、北海道ラグビーフットボール協会が主催する北海道ラグビーフェスティバルにおいて、すき間時間を活用し「Over60大会」を開催しています。高齢のカテゴリーの方たちが思う存分プレーできる場を設定したいとの思いから、当倶楽部が協会に依頼し、7年前からこの大会運営を担当しています。札幌、小樽だけでなく、旭川や帯広からも高齢プレーヤーが集まり、交流を深めながら生涯スポーツとしてのラグビーゲームを楽しんでいます。



交流会



オーバー60



3 年2回の体験会でスクール生を確保 トップ選手も輩出

毎年春・秋に「札幌少年ラグビースクール」のPRを目的とした体験会を行っており、一度体験会に参加した子どもたちは、ほぼ全員がスクールに加入しています。中学3年生まで続ける子が多く、OBの中には道内屈指の名門校・札幌山の手高校から明治大学を経て、トップリーガーとなった舟橋諒将さん(ヤマハ発動機ジュビロ)もいます。

高齢者からも好評のラグビー大会

また、「Over60大会」に参加した選手からは、「70代、80代になってもラグビーを続けたい。この大会はありがたいし、もっと回数を増やしてほしい」という声を頂いています



札幌少年ラグビースクール

4 運営スタッフと活動場所の確保が課題

少年ラグビースクールのコーチを務めてくださる保護者が指導者資格を取って指導に当たっており、協力者が増えている実感はあるものの、倶楽部全体の「運営スタッフ確保」には苦慮しています。それぞれが仕事を抱えているため、これ以上教室などの事業を増やすことは厳しく、また、倶楽部創設時より課題となっている「活動場所の確保」についても、厳しい状況が続いています。

打開策として「認定NPO法人」申請を視野

これらを解決する一歩として、現在「認定NPO法人」の申請を視野に入れており、地域の他団体とも協力し、現在札幌市が建設計画の中の新琴似市民運動広場の指定管理業務受託を目指し、課題解決とともに倶楽部の活動拡充へ向けて取り組んでいきます。

また、石狩管内の総合型地域スポーツクラブと連携し、互いの得意分野で指導者を派遣し合うなど、同じ悩みを抱えている同士で、支え合える仕組みができれば良いと考えています。

(北海道スポーツ協会 クラブアドバイザー 熊耳雅美)



■鈴木浩二・札幌オールカマースポーツ倶楽部事務局長代行の話

W杯日本開催を機にタグラグビーから普及を

「札幌市内で子どもたちがラグビーに触れる機会は、まだまだ数少ないのが現状です。2019年ラグビーワールドカップ(W杯)日本開催を機に多くのメディアが宣伝し、開催都市では体験会等も多く開催されます。子どもたちが関心を持った今、各クラブのスポーツ教室の1種目としてコンタクトプレーのないタグラグビーから採用していただくと普及の効果が大きいと考えております」

クラブ プロフィール

設立年月日 平成25年2月24日(平成27年11月NPO法人設立)

所在地 北海道札幌市北区新川西

運営 会員数184名(平成30年度)、予算規模167万円(平成30年度)

有給職員 0名

特徴 ラグビースクール、不惑世代ラグビー、女子ラグビー、フラッグフットボール、エンジョイランニング、ヨガ教室、キンボールスポーツなどを定期的に活動しています。また、ラグビー普及のイベント、タグラグビーの普及活動やフェンシング選手への支援も実施しています。

連絡先 〒001-0934 札幌市北区新川西4条4丁目6-8
TEL 011-766-6018 FAX 011-766-6019
E-Mail sasc-jimu@live.jp
URL <http://www.as-ic.co.jp/sasc/index.html>



エンジョイランニング



特別企画

ラグビーに関連するプログラムを実施するクラブ



館林ジョイスポーツクラブ ＜群馬県館林市＞



いよいよ4年に1度のラグビーワールドカップが日本で開幕します！

そこで、今回は、ラグビーに関するプログラムを行うクラブを紹介します。

1 クラブ概要

平成26年、群馬県の「スポーツプログラマー養成講習会」で出会った仲間を中心に、市体育協会の元役員やスポーツ推進委員、健康運動指導士、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者等が集まり、設立準備委員会が発足しました。

館林は群馬県でも東の先端に位置し、県のスポーツ講習会に参加するために車で2時間もかかることから、有資格指導者も少ない地域です。スポーツ団体も単一種目の団体が多く、エンジョイ志向で長く継続していくクラブがありませんでした。そこで、気軽に楽しい多種目のスポーツを、多世代の地域住民に提供をしていく「総合型地域スポーツクラブ」が必要だと考えました。準備委員会のメンバーには、ウォーキング、健康体操、ヨガやエアロビック等の指導者がいましたので、早速、健康づくりの教室を始めました。

拠点となる小学校で話をお聞きすると、運動の二極化が進み、体力がなく意欲のない子どもが増加しているとのことでした。また、共働きの保護者も多く、保護者の協力が必要となるチームではスポーツをさせたくてもできない事情があるようです。もっと気軽に体を動かすことのできる場所、子どもが自主的に体を動かす場所の必要性を感じました。

その頃、県スポーツ協会主催のACP(アクティブ・チャイルド・プログラム)講習会があり、当クラブで「スポーツ大好きな子どもをつくる」教室を始めるきっかけとなりました。現在は、「チャレンジスポーツ教室」「エンジョイダンス教室」「タグラグビー教室」を実施しています。



2 トップリーグ選手が小学校訪問 タグラグビー教室開設の契機に

設立準備委員会発足当時、群馬県東毛地区にはジャパンラグビートップリーグの「パナソニック・ワイルドナイツ」の本拠地があり(現在は熊谷市)、トップリーグのラグビー選手が、小学校を訪問し「タグラグビー教室」を開催していました。タグラグビーは、「運動量が多く、男女とものできるボールゲーム」であり、タグを使った鬼ごっこは子どもたちに大人気でした。そこで、定期的にタグラグビーを練習することができないかと考えました。

3 地元の大学附属高等学校ラグビー部つながりで 指導者と練習場を確保

指導者を探していた際に、拠点となる美園小学校のPTA会長に「子どもの初心者タグラグビーを指導していただける方を紹介してほしい」とお願いしました。同会長は、関東学園大学附属高等学校ラグビー部のご出身だったことから、同部の後輩で小学校の保護者でもある西本與(ひとし)さんを紹介していただきました。西本コーチは、ラグビーと子どもが大好きな「やさしい赤鬼コーチ」です。時にやさしく、時に厳しく、子どもたちに愛情を持って指導していただいています。

西本コーチのおかげで、館林を拠点としジュニア育成を目的に活動する「館林ラグビースクール」との連携もでき、指導者やスクールOBも参加し指導してくれます。また、西本コーチが同校のOBであることから、学区内にある関東学園分福グラウンドを借用することが出来ました。

西本コーチは、子どもたちの年齢・体力レベルや性格等を把握し、タグラグビーの多くの知識や情報を得た上で指導してくれます。練習は、体力向上のプログラムから始まり、ハンドリング練習、タグ取りの練習、練習試合となりますが、コーチは「どうしたらトライできるかな？」と子どもたちに問いかけます。勝つための戦略を子どもたちだけで一生懸命話し合います。「自ら考えて、仲間のために行動する」。これが、ラグビー精神の指導です。



4 芝の上で楽しく安全に教室 高学年チームは大会で好成績も

最初は、小学校にチラシ配布し「無料体験教室」を開催しました。小学校のグラウンドで、小学生や幼児も集まり、楕円(だえん)形のボールを抱えて走ったりパスをしたり、保護者も一緒に楽しく参加してくれました。ところが、乾いて硬いグラウンドでは転んで擦り傷を負う子どもが多くなり困りました。西本コーチのおかげで、芝のグラウンドを借りることができ、楽しく安全に教室を開催できるようになりました。

今まで、年に数回のフェスティバルやタグラグビー大会を経験し、無理なく楽しく参加していましたが、高学年になると勝ちたい意欲も出てきました。しかし、月2回の練習では「好成績は無理かな～」と思っていました。

ところが、7月に熊谷で開催された「JCカップ関東地区記念大会」で高学年チームが準優勝！「仲間と楽しむ。しかし、試合の時は真剣・集中」をモットーに指導する西本コーチのおかげだと思います。表彰式ではラグビー元日本代表のホラニ龍コリニアシ氏(パナソニック・ワイルドナイツのコーチ)から賞品を受け取り、トップリーグの試合をスチューデント席で観戦するなど、親子ともに興奮と感激が入り交じる素敵な一日となりました。

5 保護者の声 (タグラグビー教室に参加して)

「タグラグビー教室」を実施して3年10か月ですが、子どもたちは積極的に運動する元気な子どもになりました。また、保護者同士の絆も強くなり、「ファミリーとの交流」という新たな楽しみも生まれています。下記は保護者から寄せられた感想です。

- 「運動が苦手なわが子でしたが、コーチの温かく丁寧な指導のおかげで少しずつできるようになり、今では楽しくタグラグビーを続けています。私も練習に参加し、親子で運動をすることの楽しさを教えていただきました」
- 「子どもがこんなにタグラグビーを好きになるとは…。いつも教室を楽しみにしています。西本コーチや他の保護者の方たちに、たくましく育ててもらって感謝しています」
- 「ジョイスポの魅力は、家族で同じスポーツに参加できることです。家族にとって、ありがたいコミュニケーションの場となっています」



- 「外遊びも運動も苦手な子でしたが、参加することで心身ともに強くなり、運動が好きになりました。親も一緒に参加できて運動不足解消になり、親子の会話も増えました」
- 「学校や学年の違う子や、OBのお兄さん、ボランティアの保護者の方、コーチと一緒に練習したり、遊んだりすることが楽しみで参加しています」

6 タグラグビー体験イベントを計画 小学校対抗大会の開催が夢

「タグラグビー」は危険な競技と思われがちですが、親子で体験していただき、「誰もが安全に楽しみながら体力向上できるスポーツ」であることを理解していただきたいです。そのために、地域イベントで「タグラグビー体験コーナー」を計画中です。

また、小学校の体づくり運動や球技の単元として「タグラグビー」を実施していただき、小学校対抗のタグラグビー大会を開催するなど、地域で盛んなスポーツになることが夢です。

(館林ジョイスポーツクラブ クラブマネジャー 梶田万里子)



クラブ プロフィール

設立年月日 平成28年2月21日設立

所在地 群馬県館林市美園小学校学区

運営 会員数129名(令和元年6月現在)、予算規模437万円(平成31年度)

有給職員 1名

特徴 「スポーツをとおして笑顔のあふれるまちづくりを！」を基本理念として、子どもから高齢者まで、健康推進と体力増進を目標として、楽しい運動教室を行っています。また、館林の四季折々の自然の中で行うグリーンエクササイズ(ウォーキング&スロジョグ、ヨガ等)は、ストレス解消や地域住民との交流プログラムとして、毎年、多くの方が参加しています。

連絡先 〒374-0039 群馬県館林市美園町24-17 梶田方

TEL 090-2405-7924 FAX 0276-73-7254

E-Mail tate-joysports@cc9.ne.jp

URL <http://www.facebook.com/joyspo>




連載

みんなで盛り上げよう！ オリンピック・パラリンピック・ムーブメント

「beyond2020マイベストプログラム」認証事例紹介



NPO法人希楽々(きらら)
＜新潟県村上市＞



オリンピック・パラリンピック・ムーブメントとは、オリンピックの精神(オリンピズム)に従って、スポーツを通じて平和でよりよい世界の実現を目指す活動のことです。2020年に向けて国内でもさまざまな活動が行われています。

今回は、「beyond2020マイベストプログラム」に総合型地域スポーツクラブ全国協議会(SC全国ネットワーク)加入クラブで認証されたクラブの取り組みを紹介します。



1 企画経緯

測定後の数値を有効活用し、明確な目標を持てるプログラムとして企画

希楽々では健康増進、介護予防を目的とした教室を通年開催しています。その中で教室参加者が目的を持って、運動に取り組むことが大切だと考えています。

今回の内容でもある“InBody”は以前から教室のプログラムに取り入れていましたが、測定後の数値を有効に活用できていませんでした。そこで今回、このマイベストプログラムとして取り組むことで、1年後の自分を想像し、明確な目標を持って運動に取り組めると考え企画しました。

総合型地域スポーツクラブとして、地域の方に自国開催オリンピック・パラリンピックへの興味・関心を持ってもらう取り組みとしても良い機会だと思えます。教室参加者自身がオリンピックの参加者のような気持ちを持ちつつ、目標を持ってオリンピック・パラリンピック開催を楽しみにしながら、運動に励むことを目的として実施しています。



2 企画内容

● きらら2020InBodyマイベストプログラム

目標設定は体重・筋肉量・体脂肪量・InBody点数
中高年者を対象に、運動習慣の定着化目指し指導

〈目標・内容〉

体重・筋肉量・体脂肪量・InBody点数の目標を設定。
クラブでは、ウォーキング・筋トレ・エアロバイク等の
運動プログラムの提供や、自宅でもできる運動習慣の
定着に向けた指導を行います。



〈対象者〉

クラブ会員(主に中高年者)

〈実施期間・対象教室〉

- 測定登録会(最初のInBody測定):2019年7月17日～7月19日
- 運動プログラムの提供:通年3教室を対象(介護予防2教室、健康増進1教室)
- 運動習慣の定着に向けた指導:自宅でもできるストレッチ、筋トレを指導。
- 記録の再測定:東京オリンピック・パラリンピック競技大会終了時(予定)



● 「InBody」(インボディー)って何？

InBodyは、精度の高い体成分分析装置です。これまでも体重、体脂肪量を測る機器はありましたが、InBodyはさらに体内の水分量や肥満度、姿勢バランス、腕にどれくらい筋肉がついているかなど、その人の体のことが数値となって出てくる、最新の測定機器とされています。

体成分測定は、体を構成する基本成分である体水分・タンパク質・ミネラル・体脂肪を定量的に分析します。正しく健康を評価するには、体成分を正確に評価する必要があり、体重やBMIだけに頼ることには限界があります。しかしInBodyは、正確かつ簡単に体成分を分析できるメリットがあります。



3 2020後も定期的にInBody測定を計画

参加者のオリパラへの意識を醸成し、目標値に向けた運動を指南

現在3教室の参加者約60名の会員が、この取り組みに参加しています。最初の測定時点ではプログラム内容とオリンピック・パラリンピックの関係性が理解できていない参加者もいました。今後、指導者がメディアでのオリンピック・パラリンピック広報などを通して、声掛けをしていくことで開幕の7月24日を意識し、定めた目標値に向け、運動を定着化させていきたいと思っています。

オリンピック・パラリンピック終了後も定期的にInBody測定等の目標を設定し、意識しながら運動をするような環境をつくっていきたいと考えております。

(NPO法人希楽々 理事長 渡邊 優子)

●beyond2020マイベストプログラムとは

東京2020大会では、大会ビジョンと3つの基本コンセプトが掲げられています。

大会ビジョン: 「スポーツには世界と未来を変える力がある」

コンセプト: 「全員が自己ベスト」「多様性と調和」「未来への継承」

「beyond2020マイベストプログラム」は、この基本コンセプトの一つ「全員が自己ベスト」を踏まえ、大会に参加するアスリートだけではなく、一人ひとりが2020年東京大会を契機に健康面等での「自己ベスト」を目指して行動変容に取り組む環境を提供するため、「自己ベスト」を目指す個々人の取り組みを支援する事業・活動を認証するものです。

内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局が認証します。

《認証式の様子》



右: NPO法人希楽々 渡邊理事長

左: 内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局 平田事務局長

8月21日に認証式が行われました。

SC全国ネットワーク加入クラブ第2号の認証です。



クラブ プロフィール

設立年月日 平成15年5月18日(平成21年4月28日NPO法人登記)

所在地 新潟県村上市

特徴

- ・放課後の居場所づくり きらら楽校アフタースクール
- ・買物支援 ささえ隊
- ・商業施設活用プログラム
- ・障がい者の放課後活動
- ・高齢者の放課後活動
- ・観光とスポーツ
- ・小学校体育支援事業
- ・学校と地域の融合型部活動

連絡先 〒959-3423 新潟県村上市九日市501番地 神林総合体育館内
TEL 0254-66-8119(月・土=8:30~17:30/火~金=8:30~21:30)
URL <https://kirara-kamihayashi.jp/>
E-mail kirara_kamihayashi@yahoo.co.jp





連載

みんなで盛り上げよう！ オリンピック・パラリンピック・ムーブメント

beyond2020マイベストプログラム 認証事例紹介



NPO法人WillD.
＜長崎県佐世保市＞



オリンピック・パラリンピック・ムーブメントとは、オリンピックの精神(オリンピズム)に従って、スポーツを通じて平和でよりよい世界の実現を目指す活動のことです。2020年に向けて国内でもさまざまな活動が行われています。

今回は、「beyond2020マイベストプログラム」に総合型地域スポーツクラブ全国協議会(SC全国ネットワーク)加入クラブとして初めて認証されたクラブの取り組みを紹介します。

1

企画経緯

地方でのオリパラ機運醸成を目指し立案「全員が自己ベスト」に共感

東京に出張するたびに東京オリパラのムードの高まりを感じながら、遠く離れた地方都市では盛り上がりに欠けているなどという思いを常に感じていて、何かオリパラを感じながら地方でも盛り上がるものがないかと思っていたところ、この企画と出会いました。特に「全員が自己ベスト」というコンセプトは共感できます。私たちのクラブではオリンピックに陸上指導をお願いしているので、まずは「ダッシュキング」の企画を立てましたが、それだけでは市民に広がりが出ないので、誰でも参加できる「シボーレ・アモーレ体脂肪」の企画を立てました。少しずつそれぞれの目標に近づいていくことで、オリパラの足音が近づいてくるのが聞こえてきたら、企画者として最高の喜びです。かくいう私も4.1減のMAX目標を目指します。

佐世保市教育委員会にもご協力いただき、近隣の小中学校18校4600人の児童生徒にフライヤーを配布していただきました。



2 企画内容

●ダッシュキング

陸上オリンピックの田端氏が50m走指導

3%の記録向上が目標

〈目標・内容〉

50m走のタイム3%アップが目標。

クラブでは、アトランタオリンピック、シドニーオリンピック陸上男子4×400mリレー

日本代表の田端健児氏が講師として、50m走を指導します。

目標達成者には達成内容に応じて図書券がプレゼントされます。

〈対象教室と対象者〉

ウィルドゥ種目「ジュニア総合体育」「ジュニア陸上」=会員限定

〈実施期間〉

- ・ 最初の記録測定:2019年9月に記録会開催
- ・ 陸上教室開催期間:通年、毎週2講座
- ・ 記録の再測定:東京オリンピック・パラリンピック競技大会終了時(予定)

●シボレー・アモーレ体脂肪

BMI維持でも目標達成 再測定時4.1以上の減量は失格

〈目標・内容〉

標準BMI値(BMI18.5~24.9)が目標。

標準BMIの方は現在のBMIを維持するだけでも目標達成とします。

危険を避けるためにBMI4.1減以上の目標設定はできません。

再測定時4.1以上の減量があった場合は失格とします。

クラブでは、クラブハウスでのスポーツ教室や、

ダイエット等専門家による講習会等の場を提供します。

目標達成者には達成内容に応じてギフト券や九十九島名産品がプレゼントされます。

〈実施期間〉

- ・ 測定登録会(最初のBMI値測定):2019年8月27日~9月13日
- ・ 講演会:2020年2月16日(管理栄養士によるダイエットや食べ方に関する講演)
- ・ 記録の再測定:東京オリンピック・パラリンピック競技大会終了時(予定)



3 参加者全員の目標達成に向け、声掛けと気配りで応援

シボーレ・アモーレ体脂肪は、測定登録会の1日目に30人の登録があり、一応滑り出しは順調といったところです。やはり体重を人前で登録するということに二の足を踏まれる方が多いようですが、一人ひとりにお声掛けをしていきたいと思います。

今後は、声掛けはもちろんのこと、掲示物などにも気を配りながら挫折、脱落者を出さないよう応援していきたいと思います。また、ダッシュキングは素直で元気いっぱいの子どもたちですから、必ず全員が達成してくれると願っています。

来年聖火リレーが行われる頃には、事業参加者の目標達成「成果リレー」になればいいなと思っています。

(NPO法人WillDo 理事長 浅井増雄)



●beyond2020マイベストプログラムとは

東京2020大会では、大会ビジョンと3つの基本コンセプトが掲げられています。

大会ビジョン:「スポーツには世界と未来を変える力がある」

コンセプト:「全員が自己ベスト」「多様性と調和」「未来への継承」

「beyond2020マイベストプログラム」は、この基本コンセプトの一つ「全員が自己ベスト」を踏まえ、大会に参加するアスリートだけではなく、一人ひとりが2020年東京大会を契機に健康面等での「自己ベスト」を目指して行動変容に取り組む環境を提供するため、「自己ベスト」を目指す個々人の取り組みを支援する事業・活動を認証するものです。

内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局が認証します。

《認証式の様子》

8月5日に認証式が行われました。

SC全国ネットワーク加入クラブ第1号の認証です。



右:NPO法人WillDo浅井理事長

左:内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局 平田事務局長

クラブ プロフィール

設立年月日 平成17年11月19日

所在地 長崎県佐世保市

特徴 街の中心部にある廃校になった小学校の教室の一部をクラブハウスとして活用しています。交通の便が良かったため、市内各地から参加されています。現在1020名の会員数で、55%が60歳以上、男女比は75%が女性、近隣4中学校区に居住の方は60%です。開催種目はスポーツ系、レクリエーション系、文科系合わせて77教室となっています。「笑顔、清潔、値段の割に品質バッチリ」というのがクラブのモットーで、居酒屋でお品書きから気軽に注文するような感覚で種目をチョイスしてもらいたいと思っています。

連絡先 〒857-0864 長崎県佐世保市戸尾町5-1(旧戸尾小学校内)
TEL 0956-25-9373(火~土 10:00~21:00)
FAX 0956-59-9376
URL <https://sasebowilldo.net/>





助成金情報

YMFSスポーツチャレンジ体験助成

【実施団体】（公財）ヤマハ発動機スポーツ振興財団

アスリート、指導者、審判、スポーツジャーナリストなど、スポーツに関連する幅広い分野から、我が国のスポーツの普及・振興や競技水準向上につながる、高い志、明確な目的・目標、そして具体的なプロセスを持ったチャレンジスピリット、フロンティアスピリットにあふれる人に対して助成を行うことにより、世界にはばたく逞しい人材を育成することを目的としています。

※講習会やイベント開催などの普及活動、施設・団体などの運営活動、スポーツ少年団等の指導などは、助成対象外とします。

【申込期間】 令和元年10月31日(木) 日本時間の正午にて入力締切

申請フォームにて、「電子申請」を行います。

<http://www.ymfs.jp/project/assist/13th/experience/>

スミセイ コミュニティスポーツ推進助成プログラム

【実施団体】（公財）住友生命健康財団

コミュニティスポーツ(地域に根ざした市民・NPO・専門家が協力し、スポーツを通じて一人ひとりの健やかな暮らしの実現をめざす取り組み)を楽しむ文化が暮らしの中に根つき、じっくりと実を結んでいくような取り組みをしている団体に助成します。

【申込期間】 令和元年9月4日(水)～10月4日(金)必着

応募用紙をダウンロードし、必要事項を記入した応募企画書を作成のうえ、配達記録の残る手段で郵送します。

<http://www.skzaidan.or.jp/>





お知らせ

イベント情報

ブロック別クラブネットワークアクション2019開催

【日本スポーツ協会総合型地域スポーツクラブ全国協議会 主催】

総合型地域スポーツクラブ関係者が抱える課題解決の糸口を探るための情報の共有化や、クラブ育成支援のためのネットワークの強化を図ることなどを目的として全国9ブロックでクラブネットワークアクションを開催します。

詳細・参加申込はこちらから

※申込受付中ブロック:北海道、北信越、中国、九州

<http://www.japan-sports.or.jp/local/tabid/508/Default.aspx>

幼児期からのアクティブ・チャイルド・プログラム普及講習会開催

日本スポーツ協会(日本スポーツ少年団)が平成26年度に作成した、幼児及びその保護者等を対象にした活動プログラム「幼児期からのアクティブ・チャイルド・プログラム」の効果的な活用法を周知することを目的に、地域のスポーツ少年団関係者等を対象とした講習会を開催します。

開催日時・場所・申込方法等詳細については以下のURLを参照ください。

<http://www.japan-sports.or.jp/club/tabid1061.html>

第26回TAFISAワールド कांग्रेस2019東京開催

TAFISA(国際スポーツ・フォー・オール協議会)は生涯スポーツに関する各国の事例発表や世界共通の課題に関する議論などを行うTAFISAワールド कांग्रेसを開催します。

- Sport for All(生涯スポーツ)の世界各国の状況を知りたい方
- スポーツと国連のSDGsの関係など、国際的な動きに興味のある方
- オリンピック開催都市連合(WUOC)関係者とレガシーについて議論したい方など、興味関心がおありの方は是非ご参加ください！

本イベントの概要はこちらから

https://peraichi.com/landing_pages/view/tafisa2019



【開催概要】

- ・テーマ スポーツ・フォー・オール～伝統と革新～
- ・開催期間 2019年11月13日(水)～16日(土)
- ・会場 都市センターホテル(東京都千代田区平河町2-4-17)他 東京都内各地
- ・参加料(1日券) 14日:13,000円、15日:12,000円
- ・参加登録 2019年9月30日(月)までにホームページから事前オンライン登録をしてください。
※9月30日以降は、当日受付となります。

女性スポーツサポート研修会 参加者募集中

本研修会は、「女性スポーツ促進に向けたスポーツ指導者ハンドブック」を活用し、指導者が女性の身体的特徴に応じた安全・安心な指導や、年代・ライフステージ・志向などにより変化する女性の意欲・ニーズに合わせた働きかけが出来るよう、女性とスポーツに関する現状と課題の理解を深めることを目的としています。

女性のスポーツ指導現場に携わる皆様のご参加を心よりお待ちしております。

本研修会の概要はこちらから

<https://www.japan-sports.or.jp/coach/tabid1221.html>

【開催概要】

- ・開催日時・会場
東京会場① 2019年10月6日(日)／明治大学駿河台キャンパス
大阪会場 2019年11月10日(日)／TKPガーデンシティPREMIUM心齋橋
東京会場② 2019年12月15日(日)／明治大学駿河台キャンパス
- ・定員 各会場200名(先着順)
- ・参加申込 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格マイページよりお申込みください。

第74回国民体育大会 いきいき茨城ゆめ国体

国民体育大会インターネット動画配信が今大会よりスタート！！

～国体の全競技決勝がインターネットで観戦できます～

日本スポーツ協会(JSPO)と、本年の第74回国民体育大会本大会開催県である“いきいき茨城ゆめ国体・いきいき茨城ゆめ大会実行委員会”は、JSPOオフィシャルパートナー・国体パートナーである株式会社時事通信社と連携し、国民体育大会(国体)初となるインターネット動画配信サービス「JSPOTV 国体チャンネル」を開設！！

なんと、国体の全競技決勝(389本)を配信！現地に応援に行けなくても、郷土の代表を応援したり、トップアスリートのプレーをインターネット上で無料で観戦できます。また、全37競技をご覧いただけるので、これまで知らなかった競技・種目の魅力も発見できるかもしれません。

JSPOではより多くの方に、国体に参加するオリンピックや2020東京オリンピックで活躍が期待される有望アスリートをはじめ、県の代表として全国から集まったアスリートを応援していただきたいという想いのもと、国体の開催だけでなくスポーツを「みる」環境づくりにも注力しています。年に一度開催される都道府県スポーツナンバーワンを決める国体、ぜひ「JSPOTV 国体チャンネル」をご覧ください！！

国体チャンネルの紹介動画はこちらから

<https://prtmes.jp/tv/detail/1042>



国体チャンネルはこちらから

<https://www.japan-sports.or.jp/jspo-tv>

→ 「国体チャンネル」をクリック！

※パソコンでもスマートフォン・タブレットでもご覧いただけます。

※また、JSPOでは新たなオウンドメディアとして「JSPO Plus」のサイトを開設しました。こちらに合わせてぜひチェックを！！

URL: <https://media.japan-sports.or.jp/>

2020年日独スポーツ少年団ユースキャンプの参加団員募集中

本キャンプは、言語や文化を超えた両国の青少年スポーツの発展に寄与することを目的とし、ドイツスポーツユースリーグとドイツオリンピックアカデミーと共同で開催します。

期間中は、日独両国の団員におけるディスカッションやスポーツ交流をはじめ、オリンピック競技観戦やオリンピックとの交流を実施する予定です。

スポーツ少年団登録者で参加を希望される方は、所属都道府県スポーツ少年団までお申込みください。

募集期間

【団員】 2019年8月1日(木)～9月30日(月)

開催概要

- ・開催日 2020年7月23日(木)～8月6日(木) 15日間
- ・宿泊施設 埼玉県上尾市 スポーツ総合センター
- ・参加者 日本団 団員50名 指導者10名
- ・参加資格 原則として団員は15歳～21歳、指導者は50歳以下(2020年4月1日時点)ほか
- ・参加料 15万円(期間中の滞在費、食事代、交通費、観戦チケット代含む)※税込



2019年度ジャパン・ライジング・スター・プロジェクト情報

J-STARプロジェクトPRイベント終了報告&測定会実施のお知らせ

PRイベント終了報告

8月13日(火)静岡県エコパアリーナにて、中・高校生等の夢を応援するJ-STARプロジェクトPRイベント「J-STAR SPORTS FESTIVAL 2019」を開催しました。

会場には、中高生約30名をはじめ、子どもから大人まで一般の方を含め約300人が来場し、さまざまなスポーツを体験、活気のある一日となりました。中でも、J-STARプロジェクトの対象である中高生たちは、3人一組のチームに分かれ、垂直飛びや30m走などの運動能力の測定に挑戦しました。



競技体験(ウエイトリフティング)の様子



中高生No.1決定戦の様子

このほかミニ運動会や近畿大学の谷本道哉先生、サッカー元日本代表の北澤豪さん、日本ラグビーフットボール協会の清宮克幸副会長ら豪華ゲストによるトークショーも開催しました。



ミニ運動会の様子



左から室伏氏、杉本氏、廣瀬氏、北澤氏、清宮氏、谷本氏

イベント詳細については、ホームページをご覧ください。

<https://www.j-star.info/event/2019/>

パラリンピック競技 西地区（福岡）会場 測定会開催報告

9月8日（日）に福岡県・アクション福岡にてパラリンピック競技の測定会を実施しました。当日は10名の参加者が、自分の適性に合った競技を見つけるべく、さまざまな競技の測定にチャレンジしました。



また、3期生のエントリーについて、下記のとおりオリンピック競技・パラリンピック競技ともに追加募集を行っておりますので、たくさんの方のご応募、お待ちしております！！

【オリンピック競技】

- 北海道・東北エリア以外の全会場：9/2（月）→9/29（日）まで延長
- ※北海道・東北エリア（北海道）会場については申込を〆切しました。

【パラリンピック競技】

- 東地区②（横浜）会場（11/4開催）：8/19（月）→9/29（日）まで延長
- ※東地区①（東京）会場・中地区（京都）会場・西地区（福岡）会場については申込を〆切しました。

【エントリー方法・条件等】

J-STARプロジェクトホームページをご覧ください。

<https://www.j-star.info/> ※団体ごとで一括申し込いただく方法もございます。

—本件に関する問合せ先—

日本スポーツ協会 国体推進部 競技支援課

Eメール：kyougi@japan-sports.or.jp

TEL:03-6910-5809 FAX:03-6910-5820

ラグビーワールドカップ2019™日本大会情報

アジアで初、ラグビー伝統国以外で初となるラグビーワールドカップが、この日本で開催されます。
9月20日、本日、開幕です！
世界最高峰のラグビーをぜひお楽しみください。

開催期間 2019年9月20日(金)～11月2日(土)
参加チーム 20チーム (下表をご参照ください。)
試合形式 プール戦 5チーム×4プール(プール内総当たり戦):40試合
決勝トーナメント 準々決勝/準決勝/3位決定戦/決勝:8試合

プールA	プールB	プールC	プールD
 アイルランド	 ニュージーランド	 イングランド	 オーストラリア
 スコットランド	 南アフリカ	 フランス	 ウェールズ
 日本	 イタリア	 アルゼンチン	 ジョージア
 ロシア	 ナミビア	 アメリカ	 フィジー
 サモア	 カナダ	 トンガ	 ウルグアイ

試合会場 日本全国12会場
開催都市 札幌市、岩手県・釜石市、埼玉県・熊谷市、東京都、神奈川県・横浜市、
静岡県、愛知県・豊田市、大阪府・東大阪市、神戸市、福岡県・福岡市、
熊本県・熊本市、大分県

大会の詳細はこちら (試合日程や大会の最新情報をご覧ください。)

<https://www.rugbyworldcup.com/>

チケットの情報はこちら

<https://tickets.rugbyworldcup.com>

スポーツ庁からのお知らせ

第3回ジャパンSDGsアワードの公募開始

持続可能な開発目標(SDGs)推進本部は、SDGs達成に資する優れた取組を行っている、日本に拠点のある企業・団体等を表彰する「第3回ジャパンSDGsアワード」の公募を開始しました。

スポーツ庁では、昨年9月に「スポーツ国際戦略」を策定し、スポーツを通じてSDGsに掲げる社会課題の解決に対して最大限の貢献をしていくこと、すなわち「スポーツSDGs」を目指しています。そこで、スポーツ分野でSDGs達成に向けて取組をされている総合型地域スポーツクラブのみならずにはぜひ積極的にジャパンSDGsアワードに応募いただきたく、周知いたします。

【ジャパンSDGsアワードとは】

SDGs達成に資する優れた取組を行っている、日本に拠点のある企業・団体等をSDGs推進本部として表彰するもので、NGO・NPO、有識者、民間セクター、国際機関等の広範な関係者が集まるSDGs推進円卓会議構成員から成る選考委員会の意見を踏まえて決定されます。詳細な情報は、外務省HP(<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/award/index.html>)をご確認ください。

【公募期間】

2019年8月5日(月)～2019年9月30日(月)

【表彰の種類】

- ①SDGs推進本部長(内閣総理大臣)賞 1件
 - ②SDGs推進副本部長(内閣官房長官・外務大臣)賞 4件程度
- ※その他、特筆すべき功績があったと認められる企業・団体等について、特別賞を付与する場合があります。

【応募方法】

外務省HP(<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/award/index.html>)へアクセスし、応募用紙を下記のメールアドレスまで送付ください。

E-mail: sdgs.secretariat@mofa.go.jp

【結果発表】

結果は、12月下旬頃に首相官邸HP及び外務省HPで発表される予定です。

【応募に関するお問い合わせ先】

外務省国際協力局地球規模課題総括課「ジャパンSDGsアワード」担当

電話: 03-5501-8000(内線: 3801・2748・4115・3745)

E-mail: sdgs.secretariat@mofa.go.jp